ママさんレポート

花と音楽にあふれた、ほのぼの手づくり文化祭。

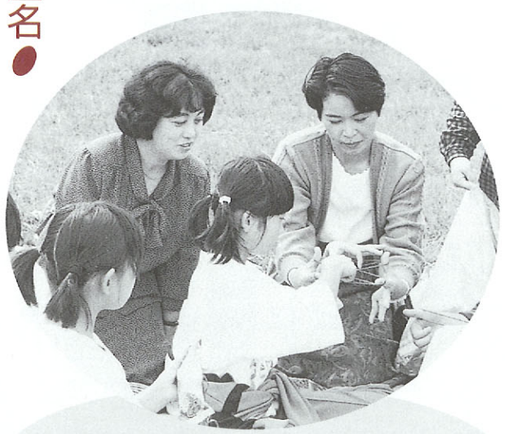
第二回 県民文化祭イン玉名

地元劇団旗上げ公演「白さぎ幻想曲」（玉名市民会館ホール）

七色の小さな花〝たまいなひゆ〟。ここ玉名地方の伝説、玉杵名姫（たまいなひめ）が七色の十二単をまとっていたことにちなんで〝スベリヒユ〟の花はこう名付けられ、玉名の街を彩ります。

花と音楽が街にあふれる九日間。第二回県民文化祭・イン玉名が、十月十四日(土)に開幕しました。企画の段階から市民が参加して盛り上げた、この文化祭。菊池川と共に文化を育んできた、菊池、山鹿、荒尾をはじめとする各市町村の協力のもと、行われたイベントは約三十。小さな子供からお年寄りまで、みんなが楽しめるような多彩な催しが、連日繰り広げられました。

今回のママさんレポートは、文化祭で賑（にぎ）わう玉名を訪問。各会場の様々な表情を捉えてきました。



でっかく遊ぼう（菊池川河川敷グリーンベルト）で子供たちとあやとりをするママさんたち
山田悦子さん（左）と石原松美さん（右）

ゆっくりしてきめてきそとぼう

山田　農業祭でやってた田んぼの中の運動会！あれはおもしろかったですね。

石原　ぬかるみを二人三脚で走ったりして、ころびそうになると周りがワッと沸くのね。

山田　あのチームワークと実行力があれば「熊本農業の未来は明るい！」って感じました。

石原　私は、私自身が農業をやってるせいもあって、食文化展に一番興味があったんですよ。今度、地元の文化祭で自分でも米料理を出品しようと思ってたから、すごく参考になりました。日本の食事は今、世界的に見直されてるでしょう。米料理がもっと献立のレパートリーに加われば、米の消費にもつながるし…。

山田　にべ料理も展示されてましたね。あんな献上物があったなんて、玉名でもあまり知られてなかったみたいだけど。キャラクターの〝にべ太くん〟以来有名になったわけでしょう。まさに歴史の再発見ですよね。

石原　それにしても、準備がさぞかし大変だったでしょうね。会場のセットひとつとっても苦労したんじゃないかしら。

山田　旗上げ公演の大道具や衣装は、地元の大工さんやパッチワークグループの人達なんかが作られたんですってね。

石原　当日も「芸能の祭典」の舞台裏では、出番を前に練習してる人がいたり…。

山田　あれだけ大勢の前に立つと思ったらどきどきするでしょうね。児童劇なんか、こっちがはらはらしたり、ほほえましかった。

石原　あれが定期的に続けばすごくいいと思いますよ。楽しいだけじゃなくて、歌の中に「自然を大切に」とかちょっと考えさせるテーマが盛り込まれてたでしょう。

山田　ほんとに。そういう所よかったですよね。満席でどこも立ち見だったでしょう。せっかくだから、玉名の方ともっとお話できるような雰囲気の休憩所があったらもっと良かったのにって思いました。

石原　その点グリーンベルト（でっかく遊ぼう）や蛇ヶ谷公園（ナイフカービング教室）は通りすがりでも気軽に入り込めちゃいましたね。

山田　子供たちとあやとりして楽しかった。

石原　あやとりとかお手玉の縫い方とか、おばあちゃんが教えてらしたでしょう。それを親子で習うっていうのがいい感じだったな。

山田　温泉街の文芸大会は他の会場とは空気が違ってて、ちょっと緊張しましたね。

石原　俳句のお好きな方ばかりの集まりですからね。でも、同じ趣味を持つ人が年に二度同じ場所に集まるなんてロマンがありますよね。

山田　詩吟とかにしても、流派を越えた発表会ってなかなかないんじゃないでしょうか。

石原　やっぱり自分の芸や作品を披露する場があるっていいもんですよね。私、料理の出品用に窯元展でお皿を買ったんですよ。

山田　いい焼き物や工芸品がたくさんありましたものね。もう美術館に置いていいくらい素敵な作品が並んでて、随分刺激になりました。私も何かやらなくちゃって。食文化展でメモして帰った「オレンジくずもち」は家で早速作ってみたんですよ。

石原　私は俳句に挑戦してみよう。何年か後には、文芸大会の席に座ってたりして…。（笑）

山田　とにかくいろんな角度から楽しめる文化祭でしたね。年齢や分野を越えて、皆が思い思いに頑張った手づくりの文化祭。家族みんなで楽しめる文化祭。そんな印象を受けました。

児童生徒コンピュータグラフィック展（玉名市文化センター）

食文化展（玉名勤労者体育センター）

県民文化祭イン玉名キャラクター

〝にべ太〟

奈良時代から平安時代にかけて、朝廷の正月の儀式で暦と氷と腹赤の贄（にえ）という3つの品物が献上されていました。
腹赤の贄（にえ）は、にべという魚であり、玉名地方から献上されていたものです。
このめでたい魚にべを玉名の歴史と文化を象徴するものとしてキャラクターとして選定しました。